

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

日本人の足下にある泉、これは古典である 宮崎 正弘 (評論家)

1. いまの日本人の足下にある泉とは何であろうか。私は古典だと思う。古典に親しむことで日本人とは何か、日本人としていかに生きるべきかを考え、自分の本当の価値を発見した人は、周囲の雑音をはね除け、己の道を信念を持って歩いていけるようになるだろう。
2. ありがたいことに、我が国には、「古事記」「日本書紀」「竹取物語」「古今和歌集」「源氏物語」等々、千年の風説に耐えて読み継がれてきた尊い古典がある。泡沫のように浮かんで消えるその場限りの言葉に振り回されることなく、先人たちが遺してくれた大切な贈り物である古典に照らして己を深く見つめることによって、かけがえない泉を発見することができるはずである。
3. 自分の運命というものは神が定めるものでもなければ、他人に指し示してもらうものでもない。自分自身で切り拓いていくものである。このコロナ禍で、先の見えずらいいまだからこそ、一人でも多くの日本人が己の足下を掘る生き方を実践し、自分の真の価値を発見することを期待したい。そうして一人ひとりが主体的に歩いていくことによって、日本の豊かな未来が切り拓かれていくことを、私は願ってやまない。

(参考:「致知」2021年6月号)

ワンポイント経営アドバイス

目の前の危機を乗り越えてきた

桜井 博志 (旭酒造会長)

1. 典型的な地方の中小の酒蔵だった旭酒造は、私が経営を引き継いでから40年弱で売上が70倍以上に伸びました。清酒の種別の一つである「純米大吟醸」でいえば、日本一の規模になっています。山口県岩国市の山深い地域にある地酒メーカーが「なぜ全国で販売するメーカーになれたのか」とよく聞かれるのですが、結論から言えば「運があった」のだと思います。
2. 経営者として、明確な戦略を持って進んできたわけではありません。目の前の危機を乗り越えようと必死に試行錯誤することを繰り返してきました。地元4社でしんがりという弱い立場だったから東京という格段に大きな市場の開拓に乗り出しましたし、売れなかったから、それまで以上に高品質なお酒を造ろうとしました。杜氏を置かず社員だけで生産するという新しい作り方にも挑みました。

(参考:「日経ビジネス」:2021年4月5日号)

経営者のための経済学

脅かされる銀行三大業務

1. 金融当局は現在、コロナ関連融資を受けた企業の元本返済を、来年以降に延長するよう金融機関に要請している。足元の倒産の減少にはつながるが、2022年3月期決算以降に不良債権が一気に噴き出す可能性は否めない。銀行は今、三大業務(預金・為替・融資)が同時にむしばまれる「複合危機」にひんしている。
2. 大分県の豊和銀行の権藤淳頭取は次のように警鐘を鳴らす。「アフターコロナも経済は以前の7割程度しか回復しない。資金支援はこの銀行もやっている。銀行が(無担保・無利息の)ゼロゼロ融資をしている間、あるいはその返済が始まるまでの間、あるいは条件変更で返済期日を延ばしたことで得られる時間で、銀行は新しいビジネスの知恵を企業と一緒に考えないといけない」。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2021年4月17日号)

古典に学ぶ

孝悌は仁を為すの本(孔子)

(解説) 孔子の教えで云うならば「孝悌は仁を為すの本」というように、初め孝悌からふみ出して、それから大きく仁義にもなり、忠恕にもなる。これを総称して道徳というようになって来るのであろう。そういう広い人道的な道徳でなくして、商売上殊に輸出営業などについて注意を望むのは、競争に属する道徳である。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)